

新生匠瑳戦略会議（第2回商店街復権部会） 会議録

開催日時：平成24年9月14日（金）

午後6時30分～8時40分

開催場所：匠瑳市役所議会棟第3委員会室

出席委員：（学識経験者）渡辺新

（団体推薦者）越川八代枝、鈴木和彦

（一般公募者）大塚榮一、岡田陽子

（5人／名簿順）

欠席委員：なし

市出席者：（事務局/企画課）小川課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

1 開 会

2 あいさつ（大塚部会長）

（省略）

3 議 事

（1）「まち（中央商店街）の香りは地域のちから!!」について

[議長]

前回の内容を少し振り返りたいと思います。

私たちの地域は農業が主体ということもあり、農業を関連させた新しい取り組み、商店街のにぎわいを取り戻すための個店の経営努力が必要だという話がありました。また、北の里山地域と南の海岸地域の間地点であるJT跡地を、それぞれの交流センターにできないかという意見もありました。全国の活発な商店街では、忘れ去られた対面販売の魅力を見直しているという話題も出ました。委員の皆さんにとっては非常に寂しい話ですが、意見としては、行きたくなるお店がない、欲しいものがない、空き店舗が使えない、後継者がいない、夜がとても寂しい、高齢者にやさしいまちになっていない、などいろいろな意見が出ました。前回の部会では、レジュメの①、②が議論の中心になってしまいましたが、本日は③「再生・中央商店街」について議論

したいと思います。前回は振り返って、A委員いかがですか。

[A委員]

何かは突然降ってきて、まちが劇的に変わるということはありませんから、関係者が一致団結してみんな汗をかかなければなりません。多くの人を巻き込んでいくためには、巻き込んでいく主体が必要になってくると思います。

[議長]

B委員いかがですか。

[B委員]

一本ラインを決めて、それに向かってみんな力を合わせればいいものができると思いますが、自分たちの役割で精一杯というのが現状です。現在は、よかっぺ祭りに向けて準備を進めています。祭りが直接まちの発展につながるかどうかは疑問ですが、どうしたら多くの人を巻き込んでいけるのかというのが一つの課題です。

[議長]

C委員いかがですか。

[C委員]

店にお客が来ない場合には、店からお客のところへ行くしかないと思います。そうすると宅配サービスということになりますが、近々市内の大型店で宅配サービスを無料で開始するそうです。個人的には、特に高齢者が植木の肥料や犬の餌などの重い物を買うときには、子どもや親戚の人に一緒に来てもらおうと思いますが、宅配であればそういう必要もなくなりますし、さらに無料であればなおさら宅配を利用すると思います。一方、市内の商店街で宅配してくれるところもあるかもしれませんが、少量の買い物で宅配をお願いしたら断られる可能性もあります。商店街の人も柔軟に対応してくれたらありがたいのですが。

[委員長]

C委員の話は興味深いと思います。従来は、宅配やアフターサービスについては商店街のウリにしなければならぬ点でしたが、それを大型店がやろうとしているわけですから、商店街の対応は後手に回っている気がします。むしろ、商店街の店がウリにしていかなければならぬことを、先に大型店がやろうとしているわけです。

[B委員]

宅配を無料でやってくれるというのはとても便利ですよ。隣の横芝光町の商工会では、女性部が早くから宅配に取り組んでいます。会員の間でも「それいいね」という意見は出ますが、それを実際にやろうというところまではいきません。

[委員長]

横芝光町ではできて、なぜ匝瑳市ではできないのでしょうか。

[C委員]

5年ぐらい前に、宅配サービスを始めてほしいと商工会へお願いに行ったことがあります。少しぐらい宅配料金が取られても、高齢者はなかなか自分で買い物にいけませんので、需要はあると思ってお願いに行ったのですが、全く取り合ってもらえませんでした。

[議長]

セブンイレブンはヤマト運輸と提携して宅配サービスをやっていますよね。個店が販売から宅配まで全てを受け持つのは大変なので、そういう専門業者と提携してサービスを提供することも一つの方法だと思います。

[C委員]

一店舗で全てをこなすのは難しいので、何店かが協力して行えばいいと思います。

[委員長]

市内にもコンビニがけっこうあると思いますが、一時期、市内にコンビニが増えすぎて一店舗あたりの売上げが落ちた時期がありました。このときコンビニは、そういうデータに敏感に反応して、新しい顧客を獲得するために宅配を開始したり、おいしいスイーツを取り扱うなど、すぐに対策を実行しています。

[A委員]

宅配といえば、大手通販サイトのアマゾンでは、書籍からCDなど何でも取り扱っていて、送料も無料です。マウスのクリック一つで翌日に届いてしまうわけですから、近くのお店にも行かなくなってしまいます。もちろんスケールメリットはあると思いますが、商店街でもそういう手法をとることができればいいのですが。

[委員長]

「それいいね」で終わることなく、次に「ではどうでしょうか」という話になれば、そういう具体的な行動案も出てくると思います。その段階に進むためには、どこが中心となって動けばいいのでしょうか。やはり商工会でしょうか。

[議長]

おそらく商工会になると思います。以前、皆さんにお配りした「乗合タクシー」の資料を再度見直してみました。タクシー会社の全ての車が乗合タクシーになるわけではありませんが、タクシー会社、商店街、市民の三者が、それぞれにメリットを得られる関係になっていることが成功の秘けつです。商店街に客を呼び込むための手段としてバスも悪いわけではありませんが、全ての人に対応できるわけではないし、バス停まで行くのも大変だという高齢者もいます。

[C委員]

バスの運営にはけっこう経費もかかりますよね。

[議長]

乗合タクシーに変更したとしても経費がゼロになるわけではありませんが、バスと比較したらかなり減額になると思います。

[委員長]

交通弱者は必ず存在しますので、交通機関をなくすわけにはいきませんが、少なくとも運賃で経費を回収できるシステムにしたり、なるべくコストを下げる必要はあると思います。

[議長]

もし乗合タクシーが開始されたら、バス会社はなくなってしまうのでしょうか。

[委員長]

千葉市ではモノレールが運行されていますが、これもあまり人が乗っていません。モノレールができた当時、千葉駅から県庁まで行くバスがありましたが、100 円に値下げしました。その結果、ほとんどモノレールを利用する人がいなくなっていました。これは相当の赤字になっているようですが、第3セクター方式で運営しているため、やめるわけにはいかないと思います。人の流れがあれば利用する可能性はありますが、匝瑳市では人の流れがありません。千葉市にも市民病院はありますが、病院へはタクシーを利用する人がけっこういます。行きは有料ですが、迎えは無料というしくみになっていますので、このタクシーはけっこう利用する人がいます。

[A委員]

市で、循環バスの停留所や路線毎の利用者数のデータはとっていますか。

[事務局]

担当の環境生活課でデータをとっていると思います。そのデータは、今後のバス利用計画の基礎資料となりますので、把握しなければならないものです。

[委員長]

もし、利用率が極端に低いバス停や路線があった場合、市では一方的に停留所や路線の廃止を決定してしまうのですか。

[事務局]

利用率が低いからといって、その結果だけで廃止を決定することはありません。検討組織がありますので、協議を行った上で決定します。もし廃止を決定するにしても、代替措置なども同時に検討しなければならないと思います。

[A委員]

小人数の常連客しか乗らないバス停だとわかれば、そこだけピンポイントにタクシーに切り替えるなどの方法もありますよね。

[議長]

乗合タクシーでは全てパソコンで管理していますから、そこにあらゆるデータが蓄積されています。

[委員長]

データは非常に大事です。データがないと、ものごとを判断するときに、どうしても感覚的になってしまいます。数字というのは正直で、必ず傾向が浮き彫りになってきます。

[議長]

その最たるものがコンビニだと思います。雨が降れば、それに合わせて入荷する品物や数量の調整などを判断できるデータがわかるわけですよね。

[委員長]

商店街のことで聞きたいのですが、前回、加瀬金物店の話をしたと思います。同じ旧道沿いに瀬戸物屋さんがあったと思いますが、あのお店は何でもそろっています。こういうお店も残したいと思いますよね。

[議長]

店の看板も出ていませんし、店内も暗くなっていますよね。

[A委員]

御主人は健在なので、お店はやっていると思います。

[C委員]

商店街のマップを作って、高齢者に配布すればいいと思います。そこに配達してくれるお店をわかるようにして、商工会に電話をすれば届けてくれるというシステムはいかがでしょうか。

[A委員]

商工会でも青年部・女性部という組織がありますから、日替わりの当番制にして1人～2人の配達員を常駐させれば、一月に一回程度で済みます。そういうしくみであればできそうな気はしますが。

[議長]

商工会に軽四輪の自動車が3台もありますので、これを使えると思います。

[委員長]

商店街の魅力といえば、きれいなアーケードなどを思い浮かべますが、ちょっと奥の道に入ると「うれしの」みたいなお店があるような、そういうどんな店があるかわ

からないような雰囲気がいいのですが。

[議長]

例えば、匝瑳市にも八重垣神社に向かって行くと右に入る小道がありますが、そこを抜けると見徳寺の方に出られます。そういう道はあるのですが、その先に店がないという状態です。

[委員長]

要素はあるのですが、そういう場所を活用していこうという案がありませんよね。

[議長]

前に出ていた意見としては、空き地・空き店舗をどう活用していくかということですが、やはり所有者が貸したがるらないという問題があります。景観の問題もありますので、本格的に考えていかなければならない時期にきているのだと思います。

[A委員]

新たに土地を購入して、そこで商売を始めようという人はいないのでしょうか。

[議長]

市内のNPOにも、空き店舗があれば何かに使いたいという意欲のある人はいますよね。

[委員長]

例えば、JT跡地に海岸地域や里山地域の特産品を集めて、物産展のような施設を造るとしたら、普通に考えれば地元の商店の人は反対すると思います。もし、そういう施設を造るとしたら、商店街の人がスタッフとして運営することになると思いますが、施設の運営に協力してくれますでしょうか。外から資本を持ってきて、こういう施設を造るとした場合、やれることはいっぱいあると思いますが、それでは商店街がますます衰退してしまいます。つまり、商店街の人のやる気次第ということですが、先ほど空き店舗の話がありましたが、ここを使って何かやりたいと思ったときに、市内の人が手を挙げてくれるといいのですが。

[議長]

最近、農工商の連携や六次産業などが注目を浴びていますが、赤ピーマンは前者の部類で、生産は野栄地区の人が行って、加工はタイヘイさんがやっています。ただ、補助金をもらっている都合上、その間は販売することができません。補助期間が3年ありますので、その間に製品化までを行うということで、赤ピーマンのソースなど4種類ぐらいの試供品を作りました。商工会女性部でも協力し、試食会をやったりNHKでも放映されたりしていました。

[委員長]

赤ピーマンは、堀川のDさんが中心になって栽培していますが、赤ピーマンを作ろうと思ったきっかけは原油の値上がりでした。ピーマンはハウス栽培ですから、ハウス内を温めるために燃料が必要です。その対策を検討しているうちに、赤ピーマンにたどり着いたそうです。いろいろ考えて農業を行っている人もいますから、それらを掘り起こし、物産交流施設のようなものがないかと考えています。先ほどの話しでは、タイヘイさんとタイアップして赤ピーマンの製品を研究しているそうですが、これは良いことだと思います。

[B委員]

製品としては、赤ピーマンのたれ、ソース、ドレッシングなどがあったと思います。

[議長]

最初は、赤ピーマンのことをパプリカと同じようなものだと思っていました。これまでは、緑色のピーマンから赤いピーマンになったときは、みんな廃棄処分をしていたそうです。しかし、赤ピーマンになると成分も変わって、逆に栄養価が高くなるようなので、良い所に目をつけているなと思っていました。現在は、商工会も一緒になって2ヶ月に1回ぐらいのペースで集まって研究しているそうですから、まさに農工商における連携のモデルケースだと思います。

[委員長]

私が栄小のPTA役員をやっていたころ、食育の話が出ていました。給食の食材として赤ピーマンを使ったり、栽培しているDさんも食材の提供に協力していましたから、赤ピーマンの生産農家は食育や地元のためにけっこう貢献しています。

[議長]

匝瑳市の給食は、全国学校給食甲子園で日本一になったこともあり、それを高く評価している人はいます。栄養価のバランスもとても良くできているそうです。

[委員長]

地産地消を本気でやっというと考えたら、学校給食で使っていけばいいのだと思います。ただ、学校給食は流通ルートが決まっていたりして、難しい面もあるみたいですね。

[事務局]

学校給食に関しては、特に生野菜については当日仕入れたものしか使えないとか、いろいろな制約があります。一般の家庭では気にしないようなことも、学校給食では厳しく求められます。

[委員長]

O-157の事件があったからです。

[事務局]

文部科学省の学校給食に対する基準は非常に厳しいと聞いております。また、厚生労働省の基準とも異なるようです。

[委員長]

戦略会議で市民病院へ視察に行ったとき、厨房を見せてほしいと言ったのはこのためです。

[C委員]

赤ピーマンはいつどこで買うことができますか。

[A委員]

存在は有名ですが、地元において一般家庭の食卓に上がらないという問題がありますよね。

[B委員]

市内では、ふれあいパークとJA直売所で買うことができます。

[C委員]

なぜ他の店でも販売しないのでしょうか。高齢者はなかなか遠くまで買いに行くことができませんから、もっといろいろな店で買うことができればいいと思います。

[委員長]

C委員の疑問は素朴な疑問ですが、核心を突いていると思います。

[B委員]

商工会でも赤ピーマンに関わっていますが、役員さえもまだ知らない人はけっこういます。

[議長]

赤ピーマンについてはわかりませんが、一定量に供給を制限して価格を下げないようにするなど、売り方にはいろいろな戦略があります。最近、商店街の飲食店が協力して、ポイント制のスタンプラリーをやることが決定しました。こういうところで赤ピーマンを使った料理を提供することで、お客さんに味を知ってもらってPRするなど、そういう取り組みで広がりが増えればと思います。

[委員長]

現状のままで放っておくと、大手食品企業などが目をつけて、あっという間に契約栽培などにつながる可能性があります。生産から流通までを地元で固めることも必要ではないでしょうか。

[B委員]

商工会の赤ピーマンの取組みは、平成22年度の赤ピーマン料理コンテストから始ま

り、平成 23 年度は赤ピーマンレシピコンテストでソースやタレを募集しました。今年
は商工会女性部でスイーツに取り組んでみないかという意見が出ています。そこで、
赤ピーマンを使ったジュレをタイヘイさんに作ってもらう予定です。

[委員長]

試供品はすでにできているのですか。

[B 委員]

大体できていて、サンプルは商工会にあります。値段も 500 円くらいからというよ
うな話をしていましたが、あまり高くなるようだと売れないのではないかと、個人的
には思っています。大手メーカーのドレッシングは 200 円前後から商品がありますか
ら、やはり価格の安い方に目移りしてしまうのではないのでしょうか。

[C 委員]

値段のことを考えると、別の産地でさらに安い赤ピーマンができてしまったら、匠
瑳市の赤ピーマンも打撃を受ける可能性はありますよね。

[議長]

ちなみに、赤ピーマンの生産農家の話では、加工に回せるだけの生産量は十分確保
できるそうです。

[委員長]

野栄地区では、ネギやピーマンを作っている農家がけっこう多いです。

[議長]

暖房の関係で、20 年ぐらい前にピーマンと関わって仕事をしていたのですが、茨城
県の鹿島市ではピーマンを盛んに作っていました。ピーマンの栽培には暖房が必要で、
真冬でも 20 度くらいの温度が必要ですから、燃料費もけっこうかかります。当時は、
まだ燃料費がそんなに高くありませんでしたが、ここまで高くなってしまうと非常に
厳しいですよ。

[委員長]

逆に商店側から、例えばイメージしている商品に合うような「〇〇を作ってくれ」
と言えるような状態になってくれればいいのですが。

[C 委員]

八百屋さん自体が、商店街の中に数軒しかありませんからね。

[委員長]

里山・檀林部会で出た話ですが、E 委員が作っているひかりねぎは全国的にも有名
だそうです。やはり地元には出荷せず、主に県外へ出荷しているようです。なぜ地元
で販売しないのかと聞いたところ、「地元の八百屋などで扱っても、一般に流通してい

る普通のネギより高くなってしまいうので、結局売れないと思う」ということでしたが、本当にそうなのでしょう。本当にいいものであれば、高くても買う人はいるような気がします。

[C委員]

東総文化会館で東日本大震災の復興イベントを行ったとき、私も手伝いに行ったので最後にネギを2本ずつもらってきたのですが、それを食べたところ甘くてやわらかくて非常においしかったです。それが、ひかりねぎでした。

[委員長]

そういう商品が並ぶ物産の交流基地みたいなものを、J T跡地に造りたいですね。後は、病院でも何でも複合的なものができればいいのですが、そういうコンセプトが実現できるような場にすればいいのだと思います。

[議長]

最近、道の駅のような施設がたくさんできて、そこに人が集まっていますよね。日常的にはスーパーへ買い物に行きますが、道の駅を利用する人も多いです。

[委員長]

それは、生産農家が販売まで手がけているところに魅力があるからです。これまで、生産農家は生産だけを行ってききましたが、そこから加工や販路拡大まで担うようになりました。隣の多古町では、食品企業がけっこう入っていますから、企業が流通から生産まで手を伸ばし始めています。ちなみに、A委員のところで扱っている位牌は大量生産のものですか。

[A委員]

うちで作っているわけではありませんが、大量生産のものです。

[委員長]

そういう位牌を作っている職人などはいませんか。仏像とかでもかまいませんが。

[A委員]

仏師とはまた少し違いますが、位牌は問屋さんで作っていますよね。

[委員長]

位牌にはどんな木を使っていますか。

[A委員]

いろいろあります。コクタンやシタン、昔ならケヤキなどもありました。

[委員長]

里山にあるスギが使えたらと思ったのですが。サンプスギなどでも位牌は作っていますか。

[A委員]

サンプスギは、主に建材だと思います。

[委員長]

林業組合長の話では、かつては匠瑳市の木材もサンプスギと同じように建材で使われていたと言っていました。

[B委員]

現在はプレカットの集成材が主流ですから、ほとんど地元の木は使われなくなりました。

[C委員]

匠瑳市にはかつて、Fさんという有名な仏師がいました。

[議長]

奈良のお寺に仏像を納めていたと思います。息子さんは現在市内にいらっしゃいますが、仏師ではありません。

[委員長]

以前、テレビ番組のちい散歩で初めて知りましたが、弓の修理をする職人がいましたよね。こういう技術も残したかったですよね。

[C委員]

匠瑳市にも素晴らしい技術があったのに、後継者がいないというのは寂しい限りです。

[B委員]

後継ぎがないということは、若い人にとって魅力がないということです。

[C委員]

全国では年間2万人の商工会会員が減っているということですから、商売人にはならずサラリーマンになってしまうということでしょうか。

[議長]

以前、テレビで有料の会員制靴屋さんが放映されていました。発注者が自分で生地を持ち込んで、お店で作ってもらうというシステムですが、よく考えたものです。

[C委員]

そういう靴屋が匠瑳市にもあればいいのですが。

[議長]

委員長が言われるように、古いものに少し新しいものを加えると、今までになかったものが生まれてくる気がします。

[委員長]

都市部にはハンドメイドの靴屋がけっこうあります。また、個人でやっている自転車屋さんや、他店にないオリジナル商品を扱っていて、もちろん修理まで対応してくれます。匠瑛市の場合は、オリジナル商品ではなく有名メーカーのものを扱っているのです。同じ商品であれば値段が安い大型店のものを買ってしまうと思います。

[C委員]

夕方7時くらいで街中のお店が閉まってしまい、人もほとんど歩いていないので、暗い上に何となく物騒ですよ。

[議長]

先日、友人と駅から国道沿いのお店に向かうときにタクシーを利用したのですが、運転手さんが「このまちは死んでいますから」と言っていたことに、大変ショックを受けました。

[委員長]

本日、会議が始まる前に、はま寿司という回転寿司チェーン店に寄ってきましたが、もうちょっと値段が高くていいので、もっとおいしい寿司が食べたいと思いました。東京の築地で、老舗の寿司屋さんが回転寿司を始めたのですが、けっこうお客さんが入っています。値段はあまり安くありませんが、それでもお店のカウンターで出しているものとあまり変わらないネタを提供しているのです。やはりおいしいです。

[議長]

価格の安い回転寿司チェーン店のターゲットは、主にファミリー層です。他の寿司屋とは棲み分けができていますので、相乗効果で客が増えていると思います。

[委員長]

私が入店したときは午後6時くらいでしたが、店内はガラガラでした。

[C委員]

子どもや孫を連れて行くお店としては、安くていいと思います。最近では、機械で注文したり、楽しい映像が流れたりするので、子どもたちは大喜びです。ただ、個人的には、もうちょっと値段が上がってもいいので、おいしい寿司を食べたいと思っています。

[委員長]

多田屋さんの近くに吾妻庵さんがありますが、ここの蕎麦はおいしいと思います。蕎麦屋さんはたくさんありますが、手打ちのおいしい蕎麦はなかなか食べられません。

[議長]

何年か前までは砂場さんというお店があり、駅前には伊勢家さんがあって、老舗店

舗が元気に商売をしていました。砂場さんは思い切って国道に出店しましたが、過大な投資が影響して結局閉店となってしまいました。吾妻庵さんのように、気軽に入れる元気な老舗が商店街にあるといいと思います。

[委員長]

砂場さんが国道に出たときに、店の造りをファミレスのようにしたと思いますが、それではファミレスにはかなわないと思います。

[議長]

旭市に「たあたん」という飲食店がありますが、この店はけっこう頑張っています。

[A委員]

近くにココス、ガスト、サイゼリアなどのファミレスがある中で、よく頑張っていると思います。

[議長]

やはり人を呼び込む魅力があるのだと思います。

[委員長]

私も何回か行ったことがあります。平日のランチでは大きなエビフライが出てきて、ファミレスのものとはちょっと違うと思いました。

[議長]

旭中央病院の前に「しま」という飲食店がありますが、かなり繁盛しています。これは旭中央病院にかなり人が来ているということですよね。

[委員長]

野栄地区の海岸通りにも同じ名前のお店がありますが、そこからのれん分けして旭に出したお店です。

[C委員]

市民病院の周辺には食堂がありませんよね。

[事務局]

市原さんという食堂が病院の前にあると思います。また、病院内にも食堂があります。

[議長]

病院内の食堂は、昼間「あづみの」さんが入って営業しています。

[委員長]

商店街の活性化が難しい理由は、個店の集まりということで店主の考え方もいろいろありますし、それぞれの生活がかかっているからです。

[議長]

店主たちもどうしていいかわからず、閉塞感が蔓延した状態に陥っているのだと思います。そういう中でも、坂本さんや多田屋さんは頑張っていると思います。

[委員長]

多田屋さんが売れているというのはどういう点ですか。

[C委員]

国道沿いにある TADAYA 2 にお客さんが入っていると思います。

[A委員]

教科書の販売とかもあるのではないのでしょうか。

[事務局]

市内で他に本屋がないと思います。

[議長]

東金にもありましたが、こちらは閉店してしまいました。以前、多田屋の社長さんが「自分が勉強会の方に力を入れてしまったので、商売がおろそかになってしまった」と言っていました。多田屋さんは全部で5店舗ぐらいあったと思いますので、それぞれに収益があると思います。

[委員長]

千葉市内にセントラルプラザというデパートがありますが、そこに多田屋さんが入っていました。意外と千葉市内には充実した本屋がなく、専門書を扱っている多田屋さんにはよく通っていました。

[C委員]

市民に「商店街がなくなってもいいのか」という内容で、アンケートをとってみるのもいいかもしれません。

[委員長]

商店街の人たちは、あのままシャッター通りになってしまってもいいと思っているのでしょうか。中心市街地がなくなってもいいと思っているのでしょうか。

[議長]

あまり危機感を持っていないような気がします。

[委員長]

もし、なくなってもいいと思っているのならば、大規模な区画整理をやってしまうのも手ですが。

[B委員]

そうになったら、商店街は大反対だと思います。

[C委員]

商店街には、高齢者が集まれる場所がありません。お店に行きたくても休憩する場所がありませんし、ゆっくりお茶をすることもできません。

[委員長]

多田屋さんの近くにある空き地で、現在駐車場になっているところがありますが、あれはどこの駐車場ですか。

[B委員]

角政さんの駐車場です。

[委員長]

葬儀屋さんをやっていて、あの街中で駐車場がなくても大丈夫なのでしょう。

[議長]

お店の前、神社の前、天下堂さんの裏、ならさぶさんの裏など、あちこちに分散してはいますが一応駐車場はあります。

[委員長]

それにしても、A委員のところや駅前の荒井さんの駐車場には、いつもものすごい台数の車が駐車されていますよね。

[議長]

御通夜に来たとしても5分ぐらいで焼香は済みますので、回転が早いために何とかなってしまうのです。現在は、日中の時間で御通夜に行くことはほとんどなく、ある意味東京式になってきています。

[委員長]

この地域では御通夜見舞というものがありますが、都市部ではありません。コンビニに御通夜見舞の袋が売っていると思いますが、あれを見て友人は驚いています。

[B委員]

新盆見舞というものもありますが、これらは地域特有の商品ですよ。

[A委員]

あの駐車台数で何とかなってしまうのはこの地域の特殊性で、例えば、御通夜に来たら18時になる前でも焼香させてもらえますよね。他の地域だと、18時になるまで焼香させてもらえず、時間になるまで待っているように言われます。そうすると、100人来場者がいるとしたら、会場にも100人分の席が必要になりますが、この地域では20人分ぐらいの席でも何とか回せてしまうのです。

[C委員]

内輪で小規模にやろうという人は角政さんを利用して、付き合いが多く参列者が多くなりそうな場合には、A委員のところや荒井さんを利用するのだと思います。

[委員長]

しかし、通りに面したいい場所なのに、空き地が駐車場になってしまうのは少しもったいない気がします。

[C委員]

商店街のメインストリートにそういう場所ができてしまうのは、とても寂しいことです。

[委員長]

今回のように空き地ができてしまった場合、個人の持ち物というより商店街全体の公の持ち物という感覚にならないと、どう利用するかを考えることすら難しいのだと思います。逆に、文化財の指定などを受けてしまうと自由に変更できなくなります、そこまでやる必要はないと思う一方、もっと商店街全体のことを考えていかないと厳しいのではないのでしょうか。ただ、所有者の立場からすれば、そんなことまで考えていられないというのが本音かもしれません。

[C委員]

大きな斎場では、花環を外に出したり壇上にお花を飾ったりしますが、角政さんは花環を外に出すわけではなく、もう少し小さい規模の花を会場内に飾りますよね。

[委員長]

あの広さで斎場として成り立っているわけですから、それなりに工夫をしているわけですね。他の商店の皆さんも、もっと工夫すればいいと思うのですが。

[A委員]

先ほどの寿司屋の件と同じで、棲み分けができているということですね。大きな葬儀はやらないが、小さい葬儀をたくさん受け持とうという工夫だと思います。

[議長]

ここ数年、お寺ではめったに葬儀をやらなくなりました。特に地方では、人口減少を意識して生活をしていかなければなりません。

[C委員]

東日本大震災があって、福島のように原子力発電所の付近に住んでいた人が全国各地に避難していたと思います。地元に戻れるのはおそらく数年後になってしまうと思いますので、そうであれば、みんな匝瑳市に引っ越してくれればと思いました。市内には空き家などがあるみたいですから、それを活用してもらえれば人口も増えて一石二鳥です。

[委員長]

震災のときに全国各地で避難者の受け入れをしていたと思いますが、匝瑳市では受

け入れしなかったのでしょうか。

[事務局]

しなかったわけではなく、実際に何人か避難者を受け入れたと思います。匝瑳市に避難してきても就職口がなくて、生活に困ってしまうような話も聞きました。

[B委員]

サーファーの人も同じことを言っていて、仕事があれば引っ越してくると言っていました。空き家については、市でも新しい事業が始まりましたよね。

[事務局]

市でも空き家バンクという事業を立ち上げてまして、市内の空き家を有効活用して、移住・定住者を増やそうという取り組みを始めたところです。

[C委員]

例えば、東北で店をやっていて、津波で店が流されてしまった人が、匝瑳市の空き店舗で仕事を継続できれば、就職の問題は解決できると思います。

[議長]

若い夫婦で子どものいる家庭が避難してきている場合には、おそらくもう地元には帰らないと思います。

[委員長]

私の同僚がNPOを作って埼玉で活動しています。実家が福島県の大葉町というところですが、やはり子どものいじめがあるそうです。先ほど事務局の発言にもありましたが、仕事の問題もあって大変みたいです。周りでNPOやボランティアの人が支えてくれているみたいですが、精神的にはけっこうきついです。

[B委員]

いじめの問題もありますが、匝瑳市では給食費の滞納もけっこうあるみたいです。

[委員長]

それは経済的な問題でしょうか。そうではない人が多いような気がします。

[B委員]

経済的な問題の人もいると思いますが、そうではなく、いい車に乗っているような人が給食費を払わないケースが増えているそうです。

[C委員]

いじめで自殺するケースもありますが、死んでしまうのは良くないことです。親からせっかくもらった命ですから。

[委員長]

C委員の言われる側面もありますが、現代のいじめは昔のものとは比べてかなり陰湿

になってきています。

[C委員]

このいじめ問題を商店の問題に置き換えると、せっかく親から引き継いだ商店を継続しないことはもったいないと思います。

[委員長]

これは少し横道にそれますが、いじめというのも4層構造になっていて、いじめる人、いじめられる人、それをはやしたてる人、傍観する人の4つに分けられます。いじめる人が、ある日いじめられる側になってしまうこともあります。私が見てきた例では、いじめる子はクラスの中でも成績優秀で、普通の子でした。昔のようにスケ番とかではなく、ごく普通の子です。

[C委員]

いじめ問題に例えましたが、私が言いたかったことは、商店街の人にも頑張ってもらいたいということです。

[委員長]

いじめ問題が実は対面販売と関係があります。いじめが起きるのは、対面販売が少なくなってきていることで人と接する機会が少なくなり、結果として子どもたちの社会性が失われているからです。

[議長]

コンビニも自分で商品を持ってきて、たいした会話もせずにお金を払うだけです。

[A委員]

マニュアル対応で、子どもにも敬語を使いますよね。駄菓子屋だったらもっとフレンドリーに話しかけるところですが、完全に大人扱いです。それが良くないと思います。

[C委員]

どんな店でも、自分の顔や名前を覚えておいてくれたり、愛想のいい店員さんがいるお店は、また行きたくなりますよね。最近はコンビニや大型店でも、店員さんの愛想が良くなりました。やはり笑顔は大事だと思います。

[議長]

私はあまり郵便局に行きませんでした。日本郵便になってからだいぶ対応が変わりました。同様に駅の対応なども良くなっていますが、そういう身近なところでできているわけですから、私たちも頑張らなければなりません。

[B委員]

商工会でも独自に接客の研修などをやってはいるのですが。

[議長]

商店街にも2軒の呉服屋がありますが、やはり時代も変わってきているということで、名は呉服屋でも扱っているものは洋服です。本業の方は、店の奥の方で少しやっているだけで、そのくらい大きく変わってきています。これも、時代の変化に対応せざるをえなかったということだと思います。単なる物売り屋というのは、大型店に値段で負けてしまって、次々と閉店してしまいました。

[委員長]

あいさつや接客というのは、ある意味やってあたりまえのことです。コンビニや大型店はマニュアル化された丁寧な対応ですが、それとは違う対応が必要だと思います。ただ、対応をいくら良くしても限界があると思います。やはり、値段で買うものを決める人も多いですし、逆に対応や値段が良くなくても、物の良さや優れた技術で判断する人もいますから、そういう側面が必要だと思います。丁寧な接客はある意味当たり前で、まだ当たり前のことができていないようですが。

[議長]

時間も迫っていますので、そろそろまとめに入りたいと思います。この戦略会議を通じてわかってきたことは、中間報告にもあるように、市民が他人ごとの状態になってしまっているということです。自分ごとにするための中間支援組織が必要ということですが、市民は現況に対して精神的に袋小路に入ってしまった状態だと思います。この現状を打破するために、中間報告のしくみが必要であろうということで、委員長の考える商店街のマスタープランも必要だと感じました。

[委員長]

中間報告の内容は、まちづくりを考えている団体にとっては、ある意味当たり前のことだと思います。ただ、匝瑳市では必要なことだと思いますので、少し長く引っ張ってきてしまいましたが、中間報告の内容だけではまちづくりにならないと思いますので、前回の戦略会議で委員長自ら反旗を翻したわけです。最終報告を作るにあたっては、もう一步踏み込んで具体的に地域の構造を解き明かしていき、そこでいろいろ構成していかないと難しいと判断しました。ただ、匝瑳市にとっては中間報告の考え方が必要だったと思います。これが新鮮に感じたということは、やはり自分ごとにはなっていなかったということですから。

[議長]

やはり、市長のリーダーシップは必要だと思います。最近、市民みんなでまちを作っていこうという考え方が主流かもしれませんが、トップのリーダーシップでみんなの心が突き動かされるということもあると思います。世の中が低迷、混沌としてい

るときには、特にリーダーシップが必要だと感じます。

[委員長]

首長がトップダウンでまちづくりをしていく手法は、バブル景気の前に多く存在しました。ただ、現在でもある程度首長のリーダーシップがなければ、市民がなかなか共感できないと思います。トップダウンでまちづくりを行った例として、以前私が関わった案件としては、宮城県の旧中新田町（現在の加美町）があります。当時のGさんという町長のやり方は、とても凄いものでした。まず、田んぼの真ん中にバッハホール（公営の音楽ホール）という施設を造り、そこへ日本でも有数のパイプオルガンを導入しました。海外からも、仙台を通り越してここで演奏したという人もいて、大変反響がありました。その他にも「ふるさと陶芸館」という造り酒屋の建物を改修して作った文化施設などがあります。その建物の管理人を、町長自ら東京学芸大学まで赴き、学芸員を引っ張ってきてしまった手法には驚かされました。また、まちで作ったパンフレットのキャッチコピーに「我々は宇宙人だ」と書いてありました。普通、行政が作るパンフレットにそういうフレーズは使いませんよね。さらに、町内の農家の方と名刺交換をしたときに、職業が「宇宙農業士」となっていました。これは、先ほどの町長のキャッチコピーが浸透しているということですよ。こういうトップダウンでまちづくりをしていくやり方が通じる時代もありましたが、現在はどちらかというと「市民みんなで考えていこう」という流れですよ。ただ、この方法で進めていくと、そこにトップのリーダーシップがなければ、新たな動きは出てこないと思います。市民協働で一番進んでいる自治体は鎌倉市だと思いますが、それは地域の特殊性によるところが大きいのかもしれません。

[議長]

同じように飯高檀林にも数百年前の建物がありますが、やはり鎌倉市では戦略的な活動が行われているのでしょうか。

[委員長]

戦略的な活動というよりは、実際に文化や伝統がきっかけで人が集まってきていますから、そこで「地域をもっと良くしていこう」と市民がいろいろ考え始めた結果、いろいろな活動が展開されているのだと思います。正直なところ、ゼロからまちづくりを進めて、成功しているところはあまりないような気がします。元々ある程度の活動があって、それがマスコミなどに取り上げられることで脚光を浴び、まちづくりが進んでいるように感じます。例えば、鎌倉市には江ノ島電鉄がありますが、まちづくりを進める上で、当初は合理化の影響で事業が継続できるかどうかわかりませんでした。銚子電鉄も同じかもしれませんが、結局事業は継続することになり、その判断が

結果的には人を呼び込むこととなりました。そういうことも考えられると思います。

[B委員]

鎌倉市は素晴らしいところなので、何度でも行ってみたいと思いますよね。

[C委員]

私が経験したわけではありませんので詳しいことはわかりませんが、昔はバスに乗って1月、5月、9月に市内の街中のお寺にお参りに行き、その帰りに街中でたくさん買い物をしていったそうです。現在でも節分などの行事があるときは人が集まりますが、昔の人はもっと信仰心があったので、毎月お参りなどに来ていたそうです。お参りする人が増えれば、まちが活性化するきっかけになると思います。

[委員長]

門前町はそうやって発展してきました。

[議長]

匝瑳高校へ続く道も、かつてはそういう通りの一部でした。

[委員長]

千葉県の交通事情は非常に面白くて、県内でもいくつかの私鉄がありますよね。他県の例で言えば、東急電鉄だと田園都市構想があって田園調布に向かって鉄道を造ったわけですが、例えば県内の京成電鉄は成田山に、小湊鉄道は誕生寺に向かっていきますよね。両電鉄ともお寺に向かっているという特徴があります。

[議長]

なかなかうまくまとめきれませんでした。時間になりましたのでここで議論は終了したいと思います。議事の(2)その他ですが、事務局から連絡事項はありますか。

(2) その他

[事務局]

2点、事務連絡をさせていただきます。

まず、次回の戦略会議(全体会)の日程についてですが、一昨日、第2回里山・檀林部会の中でも協議しまして、10月18日(木)という案が出ていますが、皆さんの御都合はいかがでしょうか。

[B委員]

その週は外出する予定が入っておりますので、私は欠席になると思います。

[A委員]

私もその日は都合が悪いです。

[議長]

私もその週の後半はちょっと難しいです。

[委員長]

現時点で3人の都合が悪いということですから、この日の開催は難しいと思います。

[事務局]

それでは、同じ週で別の日の御都合はいかがですか。

[議長]

15日～17日であれば出席できます。

[事務局]

委員長いかがでしょうか。当日議論する内容次第になるとは思いますが、委員皆さんの出席が必要という御判断であれば、再調整する必要があると思います。

[委員長]

それでは日程の再調整をお願いします。次回の戦略会議では、最終報告の骨格を全て提示します。

[事務局]

それでは同じ週で、日程の再調整ということによろしいでしょうか。

[委員長]

私はその週の予定を空けておきますので、同じ週で再調整をお願いします。

[B委員]

私はその週の都合が悪いので、部会長の都合の良い日で決めていただければと思います。

[議長]

では、15日（月）でいかがですか。

[出席委員全員]

異議なし。

[事務局]

では、10月15日（月）を候補日として、再度日程を調整させていただきます。

続いて2点目ですが、部会の議論についてはいかがでしょうか。もし、3回目の部会を開催するということであれば、この場で次回の日程を決定させていただきたいと思っています。

[議長]

ほぼ意見は出尽くしたと思いますので、本日を持って部会は終了したいと考えていますが、皆さんいかがですか。

[出席委員全員]

異議なし。

[事務局]

それでは、商店街復権部会については、今回の会議を持って終了させていただきます。次回の戦略会議では、両部会から検討結果の報告が予定されていますので、報告についてはこれまでの部会の議論を総括していただき、部会長にお願いしたいと思います。事務局からは以上です。

[議長]

それでは時間になりましたので、本日の会議はこれで終了となります。

[事務局]

ありがとうございました。

4 閉 会